

園と小のなめらかな接続のために ～子どもの連続した成長のために教師が大切にすることは～

塩尻東小学校 幼年教育「言葉による伝え合い」研究部会

1 研究の概要

今年度、塩尻東小学校は幼年教育教育課程研究協議会を行うことになり「幼年教育」を学ぶことになった。まず、「幼年教育」とは何なのだろう、というところからの出発であった。長野県から出されている資料には、「子供は、幼稚園・保育所等で、遊びを通して試行錯誤したり友達と協力したりするなど多くのことを学んでいます。(中略)特に小学校低学年では、子供が園での経験を生かせるように、教師が活動や環境を工夫することが大切です。そうすることで、子供の学びや育ちに連続性が生まれ、子供は自信や意欲をもって活動し、自己発揮ができるようになります。」とある。また、この資料の中でどきっとしたのは、「話を聞ける、ルールを守れるといったことではなく、3つの資質・能力を踏まえて、具体的な姿で目指す子供像の共有を園小で明らかにしていく」ということだった。兎角、1年生の最初には、学校のルールや話を聞く態度などの指導をしがちである。でも、本来子どもの成長にとって大切なのは、子どもたちが安心してこれまで学んできたことをもとに小学校でも成長し続けていくことだと思う。では、子どもたちが安心してよりよい成長を果たしていくには、どうすればよいのだろうか。このような思いを出発点として、園と小のなめらかな接続のために、どのような支援ができるかを研究している。

2 研究の具体

(1) 研究の始まり

塩尻東小学校では、「幼年期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)」の中から、教師が学んでみたい姿を入り口として研究をしてきた。この論文では、「言葉による伝え合い(ピクトグラム9)」を中心に研究した内容を示していく。

言葉による伝え合い部会では、まず第1回の研究会で「言葉による伝え合い」の芽をどう解釈するかということ考えた。子ども同士のやりとりを伝え合いとするのか、言葉を用いて自分の気持ちを表現したことも含まれるのかなどの疑問が先生方から出された。そのようなことから、子どもたちの言葉に耳を傾け、子どもからなぜその言葉が出たのかを考察していこうということになった。

そこで、部会の研究テーマを

「子どもから学び、教師間で学び合う」

とした。

(2) 子どものつぶやきから見えてきた研究の方向

5月20日(水) 給食

S児「ほんとはもう残したいんだよ。でもだめですよ。でもほんとは残したいんだよ。」

「全部食べれる人だけおかわりができる」というルールを設けている。カレーうどんの汁をおかわりをしたSさん。しかし、自分が思っていたよりも食べられなかったようだ。みんなが片づけた後、泣きながら食べている。「どうしたの?」と尋ねると「ほんとはもう残したいんだよ。でも、おかわりしなかったから。でもほんとは残したい。」教師「ここまでがんばったからデザートどうぞ。」S「でもだめだよ。」T「そういうまじめなSくん先生は大好きだよ。でもたまにはずるしてもいいんじゃない?」そう言うT、泣き止んで、デザートを食べ終わった。

研究会で先生方の方から学んだこと
 ・K先生は「決められたことを守るSくん素直だと思うよ。こんなに頑張ったんだもの。もうデザートにしてもいいと思うよ。みんなもそう思うと思うよ。みんなそうでしょ。」と声かけをすると言った。確かに、「ずる」というマイナスな言葉がけより、周りの子どもたちに掛けかけて「そうだよ。」という言葉をもつう方がぐんぐんとなって、「自分は頑張った」「みんなもそう思ってくれている。」という前向きな気持ちになれると、反省した。私はSくんの行動を「ずる」という言葉で決めつけてしまったのかもしれない。K先生の子どもたちを促す目的の素直さを感じた。

島田

日にち 教科 単元名
6月19日 帰りの整列時

伝え合いがあった言葉・さらさらしたつぶやき・驚いたつぶやき
「ケンカするんだったら、おれがやるわ」

そのときの様子
 帰りの整列時に、整列係が欠席のため、その代わりとして、[]さんが自ら進んで前に立ち、「並びましょう」と声かけしはじめた。それを聞いていたT児が「なんで、[]くんがやるの?」と自分前に出てやろうとし、そこでちょっとした言い合いが始まった。その時、[]さんが口にした言葉。それを聞いた二人は、言い合いが止まり、T児が黙ってはやとさんに任せた。その後(翌日)なぜ、あの時、言い合いが止まったか理由を尋ねたが、「わからない。」と答えていた。
 3人の様子を見ていて、ケンカしている自分が恥ずかしいと思ったが、自分の役が取って代わられてしまうと感じたかであるが、[]さんの現状を考えると、後者ではないか考える。

関わっているピクトグラムを貼る

先生の名前
島田

日にち 教科 単元名
6月2日(月) 算数 いろいろなかたち

伝え合いがあった言葉・さらさらしたつぶやき・驚いたつぶやき
「Kくんは何作るの?」
「ぼくは消防車!Tくんは?」

そのときの様子
 算数「いろいろなかたち」で身近な容器(瓶、缶など)で、動物や乗り物を作る活動をした。教師は「これまで、お菓子の箱などで、何を作ったことある?」と聞いた。すると「あるよ!保育園の時にやった!」と目を輝かせた子どもたち。Tさんは、アップスターの図鑑をつたてて大きめの紙の箱の蓋を貼せ、車のようなものを作った。そして、「Kくんは何を作るの?」と聞き、友達を作ろうとしているものに興味を持っていた。Kさんも、「Tくんは?」と聞いて、お互いに自分の作ったものと友だちの作ったものを見比べていた。

保育園の時に作った身近なものを使った遊びが子供達のやってみたいに繋がりが、友達との関わりもつこうことになったように感じた。

関わっているピクトグラムを貼る

先生の名前
島田

子どものつぶやきから学んでいく方法として、それぞれの先生が心にとまった言葉をロイロノートの共有ノートに上のカードとしてまとめていった。

5月22日(木)生活「全校のみんなにポップコーンをプレゼントしよう」

N児「せんせい、ちょうどいいよ。ポップコーン植えたから。」

図工「すきなものなあに」の時間、1時間なにも描かずに過ごしたNさん。自分から動き出すことも少ない。全校のみんなにポップコーンを食べてもらうために、2年生からもらったポップコーンの種から育てた苗を畑に植えた日。下校する時に、雨がポツポツと降ってきた。教師「雨、降ってきちゃったね。」すると、Nさんは教師に近寄り、「でも、先生ちょうどいいよ。ポップコーン植えたから。」私ははっとさせられた。Nさんの心の中にポップコーンへの想いがあるんだなと。



島田

6月2日(月)の1年1部の算数「いろいろなかたち」で、身近な容器で、動物や乗り物を作った。教師が「これまでにお菓子の箱で何か作ったことある?」と聞くと、「あるよ! 保育園の頃にやった!」と子どもたちは目を輝かせた。Tさんは、チップスターの容器2つに大きめの直方体の箱を乗せ、車のようなものを作った。そして、「Kくんは何を作るの?」と聞き、友だちの作ろうとしているものに興味を持っている様子だった。Kさんも「Tくんは?」と問いかけ、お互いに自分の作ったものと友だちの作ったものを見比べていた。

保育園でやったことのある活動であったことにより、安心して取り組むことができた場面だったように感じた。

5月22日(木)の1年1部の生活「全校のみんなにポップコーンをプレゼントしよう」では、2年生からもらったポップコーンの種を育て、「全校のみんなにポップコーンをプレゼントしたい」という願いを子どもたちは持った。

普段授業の中で、気持ちがのらないと活動にスムーズに取り組むことができないことがあるNさんだが、この「全校のみんなにポップコーンをプレゼントしよう」の活動では、ポップコーンの種を植えた日、ぽつぽつと雨が降ってきたことを見ると、教師に近寄り「先生、ちょうどいいよ。ポップコーン植えたから。」と伝えてくれた。Nさんの心の中にしっかりとポップコーンへの思いがあることが感じられた。

このことから、子どもは「やってみよう」と思ったことには、心を寄せ、素敵な言葉を伝えてくれるということが分かった。

このような、記録をもとに子どもたちのよりよい成長のためには研究部会で、

- ・環境設定が大切である。(題材、掲示、ものの配置)
- ・子どもの願いや育ちを見極めることが大切である。それに基づいて、必要な支援をする。
- ・先生の意図(願い)も大切である。

などの意見が出された。

そして、今年度、保育園の先生方が大切にされていることをお聞きしたり、保育園で保育体験をさせていただいたりした中で、保育園の先生方が、子供のやってみようを保育の中に取り入れたり、環境を整えたりされていることを学ばせていただいた。

そこで、研究の方向として

- ① 子どもの「やってみよう」を大切にする。
- ② 子どものこれまでの経験から発展させることを意識する。
- ③ 保育園・幼稚園の先生方の工夫を取り入れてみる。

(環境を整える 先生の言葉 教室作り 掲示)

- ④ 遊び(遊びは学び)意識する。

とした。

(3) 上原指導主事先生にお越しいただき学んだこと

研究部会に上原指導主事先生にお越しいただき、研究部会で出された疑問などについてご助言いただいた。「言葉による伝え合い」をどう捉えたらいいのか、研究の始まりのときの疑問であったことについてご示唆いただいた。小学校の終わりにどんな姿になっていけばいいかを考えることをご提案いただいた。

- ・自分の思いを言葉で伝える。
- ・自分の考えを伝える力をつける。
- ・相手の考えを受け止められるようになる。
- ・双方向のやりとりができるようになる。

わたしたちの研究部会ではこのような意見でまとめた。そして、この姿に近づくためには、園小で共通のイメージを持ち、園と小が一貫性のある支援をしていくことが大切だと考えた。そして、授業を構想する上で大切にすることとして、子どもの「やってみたい」を生み出すような環境・材料・題材の設定、「自分で課題を選ぶ」「自分でやり方を決める」「ねばり強く取り組み、自己実現を味わう」ということを学んできた。

(4) 10月1日(水)の公開授業(1年1部)から

① 教科・題材名 生活科「世界一のポップコーン屋さんを開こう」

② 主眼

サプライズでポップコーンを全校のみんなに楽しく食べてもらいたいと願っている子どもたちが、自慢の味を伝え、お店に来て楽しんでもらうための工夫を考えたり、考えを伝え合ったりすることを通して、お店屋さん当日に伝えたいことを選ぶことができる。



③ 本時までのいきさつ

5月に2年生が1年生を学校探検に連れていってくれた。このときに、2年生が1年生の時に育てたポップコーンをご馳走してくれ、そのポップコーンの種もプレゼントしてくれた。教室に帰り、もらったポップコーンの種をどうするか話し合うと、「みんなでこのポップコーンを育てて、全校のみんなにサプライズでプレゼントするのはどう?」という意見がRさんから出された。「いいね!」「ひみつでね!」「これはぼくたちの夢だね!」と語り始めた子どもたち。担任は、この活動がクラスみんなの共通の願いになるのではないかと感じた。また、保育園のときに、栽培活動を行ったり、お店屋さんごっこをしたりした経験から自分たちでその願いを試行錯誤しながら実現していくことも期待できると感じた。そこで、ポップコーンを育てて、全校のみんなに、サプライズでポップコーン屋さんを開いてプレゼントする活動にはどんな学びの可能性があるか考えてみた。①ポップコーンの栽培活動を通して、自然物の成長に感動する。②ポップコーン屋さんごっこをする中で、楽しみながら願いを広げていく。③友だちと協働で、ポップコーン屋さんを開くための準備を楽しむ。④全校のみんなを招待するポップコーン屋さんを開く準備をすることを通して、もっと楽しいポップコーン屋さんを開くために試行錯誤する。特に、お店屋さんごっこが、1年生の子どもたちにとって園で楽しんできたもので、安心して取り組み、試行錯誤しながら行うことができるものであると考えた。そこで、6月に子どもたちに「ポップコーン屋さんにしなない?」と担任から提案すると、「いいね!」「楽しそう!」「やってみたい!」と目を輝かせた。そこから、レジを作ったり、看板を作ったりしながら、子どもたちは遊びの中でポップコーン屋さんのイメージを広げていった。

このような活動を通して、子どもたちが友だちと関わる楽しさに気付いたり、進んで触れ合い交流したりする姿を願っている。

授業記録

6月24日（火）

「サプライズで全校のみんなにポップコーンをプレゼントしたい」という子どもたちの夢がポップコーンの成長と共に実現したい目標となってきた。Tさんは、「先生、ポップコーン大きくなってきたよ。このままではみんなにばれちゃう。」と語り、「ひみつ」を楽しみながら、全校のみんなにポップコーンをプレゼントするということを実現させたいようであった。そこで、担任は子どもたちのその夢を実現させ、ぜひ全校のみんなが喜んだ顔を見て、子どもたちに満足感ややり遂げた喜びを感じてほしいと思った。そのためには、どのようにポップコーンを作るのか、味はどうするのか、どのように渡すのかなど、自分たちで決めて、自分たちで作って、自分たちでプレゼントしてほしいと思った。そのためには、実際にポップコーンを作って納得できる味にしてほしいと思った。「みんなが本気で全校のみんなにポップコーンをプレゼントしたいと思っていて、がんばる気持ちを教頭先生に伝えられたら教頭先生がお金を出してくれるかもしれないよ。」と伝えた。すると、「教頭先生に話しに行きたい!」と語った。「何て言おうか。」「これはあそびじゃありませんって言ったほうがいいよ。」「でも、ひみつにしてくださいって言ったほうがいいよ。」子どもたちの話し合いにより、「全校にあげるための実験をするので、お金を出してください。遊びじゃなくて勉強です。お願いします。(小さい声で) ポップコーンを作ります。内緒にしてください。」と言うことが決まった。教頭先生にお願いに行くと、「もしおかわりしたい子がいたらどうするの?」「ひみつにしながらすきな味を調べるにはどうするの?」と尋ねられた。子どもたちは「どうしよう。」とつぶやいた。教頭先生からいただいたこの宿題を教室に持ち帰りみんなで話し合った。「6年生は卒業しちゃうからおかわりがほしかったら先にあげよう。」「あとは、また来年ポップコーンを作ってあげればいいかな。」「ひみつにしながら好きな味をきくためには、担任の先生にきいてもらおう。」「そしてさ、世界一、宇宙一、めっちゃおいしいポップコーンを作ろうよ!」と話し合いが進んだ。



7月3日（木）

楽しみながら、ポップコーンを渡すイメージを広げるためにポップコーン屋さんごっこをすることにした。

普段、自分の思いを押し通して友だちとトラブルになることがあるOさんは、「Kくんと力を合わせてレジを作るんだ。」と言って、「箱のここに引き出すところをつけたらどう?」と尋ねながら、レジを作る姿があった。また、朝、健康観察で名前を呼んでも自分の体調を伝えることをしない(恥ずかしいのか、答えることが難しいのか今は私には分からない)Nさんは、お店の前に素敵なキャラクターを飾っていた。その素敵なキャラクターをみんなに「このキャラクター、先生とっても素敵だと思ったんだ!」と紹介した。そして、「Nくん、ポップコーンやさんのキャラクターを作ってくれる?」と頼むと、無言でうなずき、1時間キャラクター作りを続けた。友だちに何か話しかけられたNくんは、「ぼくは、キャラクターを作る係だから。」と語っていた。自分の役割をしっかりと果たそうとするNくんの姿が見られた。このような姿から、このポップコーン屋さんごっこの活動は、子どもたちの自然なやり取りや、役割が生まれる素敵な活動になっていると感じた。



7月11日（金）

ポップコーン屋さんごっこを通して、自然なやり取りや役割が生まれつつあったが、子どもたちは、どんどん自分の発想を広げ、作りたいものを作ようになってきた。そして、だんだんに一人ひとりが作ることに没頭するようになっていった。中には、担任から見るとポップコーン屋さんとは関係のないものを作り始めている子もいる。レジを置くための机はいっぱい。担任としては、少し整理し、来てくれる人が分かりやすいようにしてほしいと思った。そこでこんな提案をしてみた。「レジがたくさんで、ちょっとお買い物しづらい気がするんだけどどうかな。」C「そうかな。」「大丈夫だよ。」T「でも、一回使わないものは片づけたり、整理したりするのはどうかな。」N児「ぼくもそう思うよ。今日持ち帰る。」R児「また、作るのはいやだよ。とっておきたいよ。」などの意見が出され、持ち帰る人と残しておく人に分かれた。少し整理してほしいと思う担任の思いと子どもたちのせっかく作ったものを使わないのはいやだという気持ちのずれがあった場面だった。こんなとき担任としてどんな言葉がけをしたら良かったのか。子どもの思いを受け止めながら進めることは難しいと感じた場面だった。



8月22日（金）



2学期始業式。長い夏休みが明け、元気に登校した子どもたちは、まっさきに、皮が茶色くなったポップコーンを見に行っった。「先生！ポップコーンが茶色くなっちゃったよ！」と。子どもたちは心配そうにしている。「それは、実ができた証拠だよ。」と担任が伝えると。「そーなんだー。」とじっとポップコーンを見つめていた。そんなやりとりの中、Tさんは、「先生！ポップコーンに黒い虫がついている！」と発見した。子どもたちはとても心配そうにポップコーンにかけよった。

そこで、みんなでこのポップコーンについて虫をどうしたらいいか話し合った。「スプレーとかするんじゃない？」「うちに虫を退治するスプレーあるよ！お家で聞いてくるね！」とTさんがお家で聞いてきてくれることになった。翌々日、「おすスプレーがいいみたい。」と担任に言いに来た。「それどこに売っているの？」と聞くと「ちがうよ先生、お酢を薄めてスプレーすると虫がいなくなるみたい。」と教えてくれた。次の日、Tさんが教えてくれたお酢スプレーをみんなでかわりばんこにしてみた。すると、その次の日には、ほとんど黒い虫がつかなくなっていた。大切なポップコーンを守ることができた。

9月4日（木）



畑で育てたポップコーンが無事に実った。いよいよポップコーン屋さんを開く日が近づいてきた。そこで、全校のみんなに喜んでもらえるように担任が買ってきたポップコーンで試作をした。ポップコーンがはじける様子に「わあ〜。」という歓声が上がった。おおさじ1のポップコーンにしおを2つまみ入れるレシピを担任が子どもたちに知らせ、一回目のポップコーン作りを行うことにした。2つまみ入れて、味見をしてみると「ちょっとうすいかな。」Nさんは、「先生、食べてみて。」と持ってきた。「う〜ん。ちょっと味がうすいかもね。」と伝えた。しばらくするとまた持ってきて、「先生、これならどう？」「おいしいけど、ごめん、先生はもう少しうすい味の方が好きかも。」と伝えた。するとまた、しばらくするとポップコーンを持ってやってきて、「先生、これならどう？」「うん！先生の好きな味！」と伝えると笑顔でグループにも

どりと、黙々と片づけを始めた。「Nくん、片づけも上手だね!」「家でもやっているからさ。先生のも洗ってあげるよ。」と言って、誰よりも一生懸命片づけをする姿があった。

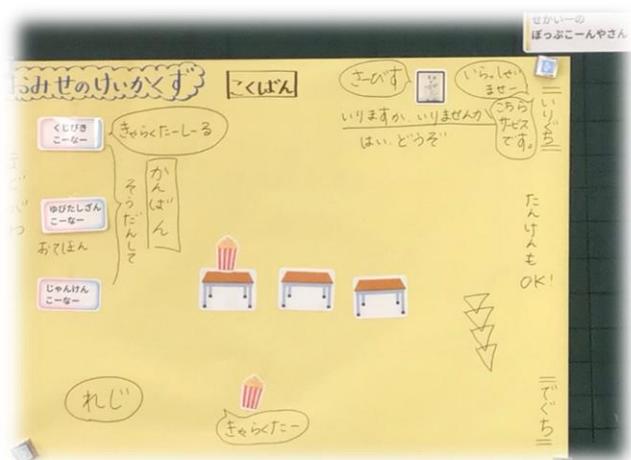
9月11日(木)

教頭先生から出された宿題である「全校のみんなの好きな味を調べる」ために、子どもたちは分担をしてアンケートを担当の先生に渡しに行った。そして、その結果、「しお」「キャラメル」「バター醤油」が多いことが分かった。



前回「しお」を作ったので、この日は「キャラメル」を試作した。大さじ1のキャラメルシュガーと大さじ1のサラダ油をフライパンに入れ、ちょうどいいところで火をとめる。「先生、真っ黒になっちゃった。」「にが〜い。」あちこちでそんな声が聞こえてきた。「難しいね。どのくらいで火を止めたらいいかみんなで研究してみようか。」子どもたちは、「今かな。」「もういいんじゃない。」「まだまだ。」などと言いながら、おいしいキャラメルポップコーンになるように考えていた。2時間の中で、4人分を繰り返し作ることにしていたので、やり方を変え、だんだんおいしいキャラメルポップコーンになってきたようであった。授業の最後に振り返りをした。「はじめさ、こげちゃった班があったみたいなんだけど、どのくらいで火をとめたらいいのかな。」S児「チョコレートソースくらい。」T児「みずっぽくなったら。」という意見が出された。子どもたちは、おいしいキャラメルポップコーンを作るために、ちょうどいいときを分かる言葉で表現していた。(ポップコーンの試作にはたくさんの保護者のみなさんお手伝いに来てくださった。)

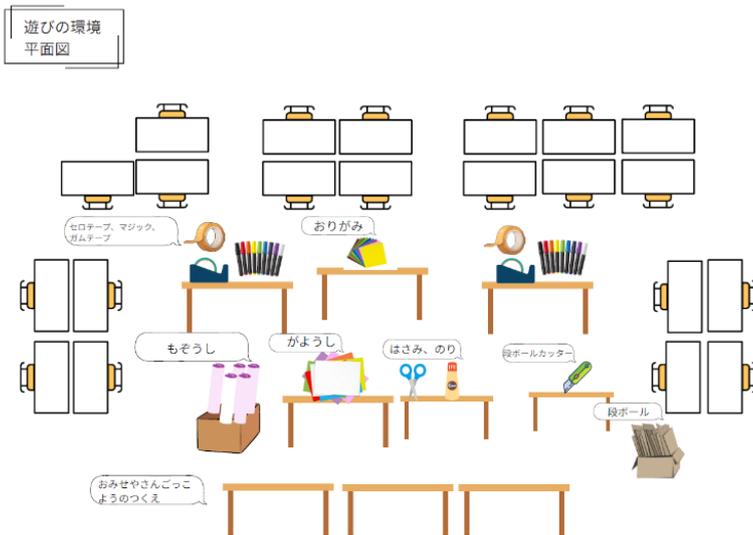
9月26日(金)



いよいよ「せかい一のぽっぷコーんやさん」を開くためのお店準備が始める時がきた。みんなで、お店の計画図を話し合うことにした。N児は、この前の時間に、キャラクター係に立候補した。お店の計画図を考えると、進んで手を挙げ、「キャラクターのシールをほしい人に配ったらどうか。」「くじびきコーナーの商品もキャラクターのシールにしたい。」と次々に自分のやりたいことを語った。教師が「そんなにたくさん大変じゃない?」と言うとN児は「大丈夫だよ。全然大変じゃない。」と目を輝かせた。

H児は、あじのせつめい係になり、自分たちのしたい準備に「あじのおいしさをつたえる。」と発言した。そして、そのために「あじのぼらんすをつたえるためのものを作りたい。」と発言した。「あじのぼらんす」とは何だろうと思ったが、これまで、塩味、キャラメル味、バター醤油味のポップコーンを作り、「塩味は、薄味が好きな人用を作ったり、濃い味が好きな人用を作ったりしたい。」「キャラメル味は、こげないように作りたい。」「バター醤油は、しょっぱすぎないようにしたい。」など、味についてふりかえりを行ってきたからかと思った。子どもの言葉の面白さを感じた。

④ 本時での環境構成



保育士体験で保育園に行かせていただいたときの教室環境をイメージしたり、保育園の先生にアドバイスをいただいたりして、お店の準備のための「遊びの環境」を構成した。中央に子どもたちが願う材料を準備し、必要などきに必要なものを持って行かれるようにした。

⑤ 本時の子どもたちの様子から

N児 Oくん、段ボール切って おれキャラクターつくる

O児 オッキー、どういふうに切る？

(O児が、切った段ボールをガムテープでつなげて、箱を組み立てている。)

(N児が、キャラクターを赤とオレンジの折り紙に描き、テープでつなげている。)

O児 箱ができた Nー、箱できた

★言葉でのやり取りで、お互いの作業の進み具合を確認している。

(床にカッターが置きっぱなしなのを見て)

N児 Oくん、危ないこのカッターナイフの置き方

★道具の使い方を危険がないように伝えている。



T児は同じグループのK児と看板作りに励む。各自が段ボールの周りを切っていく、持ち手を付けた。もう1枚同じように切っていく、2枚重ねる。手持ち部分を「太いだろう。」と話していた。それから、「ハンマーみたいになった。」と楽しそうな様子。「僕はいま、模様を描いている。」とお互いの作業状況を報告し合いながら取り組んでいた。K児が看板を2枚重ねて、段ボールカッターで端をそろえようとしていたがうまくいかなかった。そのとき、K児に「端をぴったり合わせればいいんだ。」とアドバイスをしていた。

★二人とも、何をするか自分のイメージをしっかりとっていて、生き生きと作業に取り組んでいた。何かを相談している姿は見られなかったが、報告している姿は多く見られた。



Rはダンボールと折り紙を取りに行く。同じチームのMにダンボールをわたす。

R「M、これ、いる？」

2人はダンボールカッターを持ってきて、ダンボールを切る。ゴシゴシカッターを動かしながら、それぞれがダンボールの長い短冊を1本ずつ切る。

M「どうする？」と言われて、Rは2つのダンボールを十字に重ねて折り、ガムテープではる。飛び出る辺があるので切る。1辺を短くすると、短くなりすぎてしまう。さらに飛び出た辺を切ると、また違う辺が飛び出す。それを何回か繰り返してから、

R「せん、書いとけばいい?」と言って、マジックで線を書くが、線を引いてそこで切ってもどんどん小さくなってしまふ。まあまあのところで2人は「完成!」と言う。

★2人の会話は多くないが、ダンボールはいるかどうかや、こうすればうまくいくかなあという会話はしている。自分たちが作りたいレジの箱の形を作っていく過程で、活動に集中していても、本当に必要な会話はしていると思われる。



⑥ 研究会でのご意見

- ・子どもたちの気持ちがポップコーン屋さんをやるんだ、に向かっていた。
- ・同じ目標に向かって、それぞれの役割を果たしていた。
- ・園でも経験していることがいっぱいあった。
- ・帽子がカラフルで面白い。園でも子どもたちの気持ちが高まるようにエプロンを作ったりする。
- ・活動で暇になる人がいるが、すでにチーム分けがしてあって何をすることが分かっていた。
- ・環境で育てることが園では標準である。遊びがそのまま学びだから。
- ・材料があったから出てくるアイデアだった。
- ・教師がどう見取って返していくかが大切。

⑦ 上原指導主事の先生より

- ・園と小学校で共通の目指す子どものイメージを持つことが大切である。
- ・園とのなめらかな接続のためにも、子どもが園で経験してきたことを組み込む。そうすることで安心感を持って、取り組むことができる。
- ・小学校は園の先生に、環境構成についてアドバイスをもらうなどできると良い。

⑧ 研究から見えてきたこと

- ・子どもは「やってみよう」があるときに、「幼年期の終わりまでに育てほしい10の姿」に近づく。
- ・教師は「幼年期の終わりまでに育てほしい10の姿」を意識し、子どもの発達段階や願いをもとに環境を構成する支援をしていくと有効である。
- ・環境構成においては、自己選択ができる(材料の種類、量、方法など)ことを意識することが大切である。
- ・活動から見られた子どもたちの良さを教師が見取り、返していくことが大切である。
- ・園と小で共通の目指す子どものイメージを持って支援していくとよい。

3 終わりに

公開授業の後に、信州大学附属幼稚園の鈴木崇晃先生のご講演をお聴きした。その中で、「遊び」とは、自分で見つけた課題を、自分なりの方法で、自分の力で実現・達成することである、と教えていただいた。まさに、「遊び」は「学び」だなあと思った。そして、子どもにとって、自分の行動を自分自身で決定し、支配していると考えられる「自己原因性感覚」が「やる気」につながることも教えていただいた。

子どもたちが、この「自己原因性感覚」を感じながら学んでいくためには、本研究で見えてきた「子どものやってみようがある」、「環境の構成」、「自己選択できる」を教師が意識して支援していくことが有効であると考えられる。これらを意識し、1年生の子どもたちが、園で培ってきた力を発揮し、2年生以降もその力がさらに伸びていくように支援していきたいと思う。

10月1日(水)3校時
 1年1部 男子9名 女子12名 計21名
 授業者 島田 美香 会場 1年1部教室

(1)主眼

サプライズでポップコーンを全校のみんなに楽しく食べてもらいたいと願っている子どもたちが、自分たちのポップコーンのおいしさを伝え、お店に来て楽しんでもらうための工夫を考えたり、考えを伝え合ったりすることを通して、お店屋さん当日に伝えたいことを選ぶことができる。

(2)展開

学習活動	子どもの反応	・支援 「発問」	時間
① これまでの振り返りと学習問題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく準備したいな。 ・全校のみんなを楽しませるための準備をしたい。 ・味のおいしさを伝えたい。 	<p>・支援 「発問」</p> <p>「前の時間にお店の計画図を考えたね。そして、それぞれの係でやりたいこと、つくりたいもの、材料を話し合ったよね。」</p> <p>・前回決めた係が分かるように掲示する。</p> <p>「先生もとってもわくわくしてきたよ。」(帽子をかぶる。)</p> <p>「世界一のポップコーン屋さんを開くための準備をしよう。」</p>	5
<p>【学習問題】「せかい一のぽっぷこーんやさん」をひらくじゅんびをしよう。</p>			
② 学習課題を決める	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしいと思ってもらえて良かったね。 ・全校のみんなにもおいしさを伝えたいね。 ・バター醤油はしょっぱくておいしいよ〜って味を説明したらいいかな。 ・キャラメルはあまくておいしいよ〜って看板に書こうかな。 	<p>「ところで、この間教頭先生にバター醤油のポップコーン食べてもらったよね。たくさんあったから職員室にいた先生に分けてあげたんだって。それを3の1の金井先生が食べて感動してこんなお手紙くれたよ。」</p> <p>「1の1のポップコーンのおいしさをどうやって伝える？」</p>	5
<p>【学習課題】おきゃくさんにぽっぷこーんのおいしさを伝え、たのしんでもらえるようにくふうしてじゅんびをしよう。</p>			
③ お店の準備やお店屋さんごっこ	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇ちゃん、一緒に飾りを作ろうよ。 ・〇〇ちゃん、力を合わせてレジを本物っぽくしようよ。 	<p>準備物(子どもたちが作った材料リストをもとに準備をする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙(5枚くらい) 	25

<p>④ 本時の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・○○くん、一緒に楽しいキャラクター考えよう。 ・うれしそうに友だちと道具を作っている。 ・○○するともっと楽しいよね。 ・塩、キャラメル、バター醤油のおいしさをそれぞれ書くといいね。 ・おいしいですよ～っていうのぼりがあるといいかな。大きな紙で作ってみよう。 ・世界一おいしいよ～って書こうよ。 ・ほっぺたがおちるかもよ～って書く？ ・友だちがやっていることをじっと見ている子もいる。 ・ごっこ遊びをする。 ・いらっしやいませ～。 ・どの味がいいですか～。 ・キャラメル味はとってもあまくておいしいですよ～。 ・お客さんにポップコーンのおいしさを伝えるために看板に「キャラメルおいしいよ～」って書きました。 ・すごい！それ、いいね！ ・お客さんが来て楽しんでくれるようにレジを本物っぽくしました。 ・わ～！本物みたいだ！本物のお店っぽくなるね！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙(色々な色を3枚くらいずつ) ・折り紙 ・マジック ・テープ(5こ) ・布ガムテープ(10こ) ・ビニールテープ ・段ボール ・段ボールカッター ・カッター板。 ・はさみ ・のり ・練習(お店屋さんごっこ)ができるように、「おきゃくさん」「ぽっぷこーんやさん」の名札を作って練習できるようにしておく。 <p>「今日どんな工夫をしましたか。それぞれのできたものを見せてください。レジ係はどんなものができましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任もそれぞれの活動の工夫を広めるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】 お店屋さん当日に伝えたいことを選ぶことができたか。 (つぶやき・発言・表情)</p> </div>	<p>10</p>
------------------	--	---	-----------

【本時見ていただきたい点】

- ◇自分たちのポップコーンのおいしさを伝え、お店に来て楽しんでもらうための工夫を考えたり、考えを伝え合ったりする子どもの姿。
- ◇子どもの願いが実現されるような題材の設定・材料・環境。